■シリーズ■

中学校武道

―授業の充実に向けて―

183

―「今」の時代の武道授業を追い求めて―⑫

（ICTを活用し、AIで振り返りを行う相撲授業）

熊本市立二岡中学校　教諭　松元祐志

外遊びの減少、運動の二極化が進む現代において、武道は、直接的な身体接触を通して他者とコミュニケーションを取ることができる素晴らしい競技としての一面があります。

熊本市の取り組みや国のGIGAスクール構想により、ICT（情報通信技術）環境が整備されて、1人1台のタブレット端末は学校生活の多くの場面で活用が進んでいます。今回は、そのICTを授業で活用したり、全国相撲指導者研修会で学んだりしたことなどを活かした相撲の授業（前任校である熊本市立西原中学校での取り組み）を紹介します。

1　授業内容の工夫①　ジグソー法を用いたオリエンテーション

体育分野の各単元の1時間目の授業では、多くはオリエンテーションを行います（写真1）。単元の見通しを持つ、特性や成り立ち、安全面での配慮事項を理解する、そして題材に興味を持つことをねらいとしています。今回の取り組みでは、教員の講義的な説明ではなく、生徒が主体的に題材（相撲）に関わることができるようにジグソー法（生徒同士が協力し合い、教え合いながら学習を進める方法）を用いてオリエンテーションを行いました（写真2）。

6人班で1人1テーマを担当し、15分でまとめ、各自1分強で発表を行いました。テーマは、歴史、世界での相撲、伝統的な面、興行的な面、四股名や部屋名の付け方、自由テーマとしました（図1）。発表の後は一つ、二つの質問タイムを設けたため、みんな真剣に調べていました。伝統的な面を調べた生徒には、2時間目以

相撲の歴史

○起源
相撲は力くらべや取っ組み合いから発生した。相撲はその年の農作物の収穫を占う祭りの儀式として、毎年行われていた。約300年続いている。

○宮廷で行われていた
奈良時代になると国家的儀式として宮廷で行われていてルールが確立していったと言われている。16世紀ごろには土俵が誕生した。江戸時代になるとプロの力士集団も現れ始め、現在の相撲の原型が出来上がったと言われている。

相撲の収入
柱は相撲事業で、開催する所の入場料収入やテレビ収入などが該当する。
興業として相撲が組織化したのは
江戸時代中期
相撲見る人の値段
例)マスA席…土日祝13000円、平日12,000円
マスB席…土日祝10500円、平日10,000円

相撲

土俵入りの際は本来は土俵の神様に礼をして審判の前を通る時に
「失礼します」の意味で軽く片手を上げて土俵に上がる

相撲は「礼に始まって礼に終わる」
⇒礼儀作法が重視されている。

礼儀が必要とされる理由
⇒相手への敬意を表すことによって、自分をコントロールできる
礼儀を尽くし、技や心をコントロールする

礼儀
⇒思いやりや感謝の気持ちを持つ謙虚な心構えのこと

四股名の決め方

四股名の決め方に決まりはありません。例えば、所属部屋の親方の現役時代の四股名から一文字をとって決めたり、部屋によって継承する四股名の一部が決まっていたりします。

また、「海」「川」「山」など馴染みのある自然を表す一字を使う四股名も多いですね。

変わった四股名には、「天空海（あくあ）」や「雷り（いなびかり）」「皿鉢鵬（おっとせい）」といった四股名を名乗る力士もいます。

師匠である親方が決めたり、自分自身、後援会、親御さんなどなど。付ける人もそれぞれです。

部屋名の決まり方

該当部屋に所属する年寄の中の責任者（師匠）の年寄の名が部屋名に冠せられる。そのため、同じ部屋の部屋名のみ変更になる例、逆に、組織的つながりはなくても部屋名が同一になる例がある。

※日本相撲協会（以下「協会」）の構成役員。通常は「親方」の敬称で呼ばれる

図１　各自が調べたことの例

▲写真２　グループで教え合い学習を進める様子

◀写真１　オリエンテーションでのむかで運び足

降、蹲踞（そんきょ）や塵浄水（ちりちょうず）、その他礼法を取り扱う時にリトルティーチャーの役を担ってもらいました。四股名については、決め方の基本を知ることで、後々個々でオリジナルの四股名を考えました。その四股名で試合や審判法に取り組み、楽しみながら授業をすることができていました。

写真３　動画を撮り合い仲間の学習を支援する

2 授業内容の工夫② 動画撮影

自分の動きを客観的に把握したり、視覚的に技術ポイントを理解したりする際に、タブレット端末は非常に有効です。カメラ機能を使い、自分の技の動きや試合を撮影し、課題を見つけ、改善を図りました。その際、撮った動画をただ見るだけではなく、見る視点を明確にし、技術ポイントと比較しました。「押し」であれば、動画を見る視点は、「中腰の構え、重心、腕だけで押していないか、足の運び方」とし、技術ポイントは「中腰の構えを維持、すり足で前に出る、低い姿勢から押し上げる、脇をしめる」などとしました。生徒は繰り返し運動に取り組む中で、知識と技能を往還し、仲間との対話で思考を働かせながら、相撲の学習を深めることができていました。

ＩＣＴを活用するときに、体育では運動量の確保との両立が肝心です。相撲は、１試合に要する時間が極めて短い構造的特性と、瞬発力など全身を使う効果的特性を有しています。試合をたくさん行うことで運動量を確保しつつ、撮影者のときは適度な休息も取ることができます。また、動画撮影をすることは、体育理論領域の「運動やスポーツへの多様な関わり方」で学習する「する、見る、支える、知る」のうち、仲間の学習を支援する「支える」ことに該当します。相撲とＩＣＴの相性のよさを実感しました（写真３）。

3 授業内容の工夫③ ＩＣＴを使った振り返り

授業の振り返りには、Microsoft の Forms を使いました。選択肢での回答は即座に集計されるため、生徒の主観的な学習達成度などをすぐに把握することができ、授業のまとめや次時の見通しを伝える場面で活かすことができました。文章による記述は、これまでの紙の学習シートでの振り返り同様、思考力、判断力、表現力の評価の材料にするとともに、授業改善に役立てました。Microsoft の Bing AI で要約をし、次時の授業改善の参考にしました。また、前時の振り返りを用いる形での授業の導入では、これまで一部の生徒の振り返りを示していましたが、ＡＩ（人工知能）での要約では生徒全員の振り返りを反映した形とすることができました。

例えば、８時間扱いの３時間目の学習の生徒の振り返りの要約は、「授業の振り返りを読ませていただきました。授業中には、脇をしめたり、姿勢を低くしたりすることで力が入りやすくなることが分かったようですね。また、足の使い方や腰の落とし方など、まだまだ改善の余地があるようですが、次の授業で工夫していくとのことでした。最初よりも力を入れることができるようになったということで、今後も強く押すコツを活かしていくとのことでした。楽

しく相撲ができたようで、良かったですね」でした。

この場合では、次時で運び足の復習を取り入れたり、姿勢を低くすることと腰を落とすことのキーセンテンスの統一を行ったりしました。

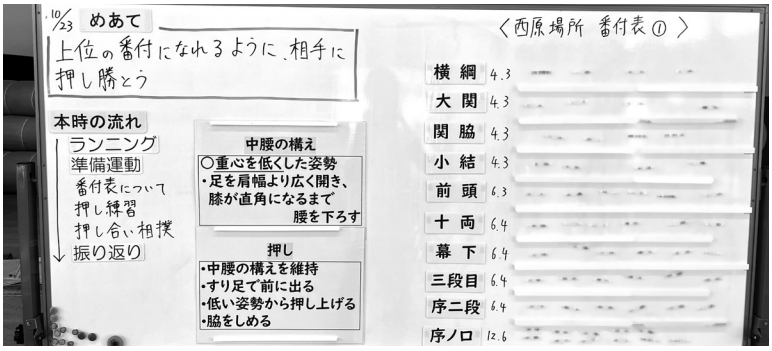

写真４　番付表を用いた試合時の板書

4 授業内容の工夫④ 場所、用具の工夫

相撲、柔道、剣道などの武道は裸足（はだし）で行いますが、抵抗感が大きい生徒が多数います。そのため今回は、体育館シューズを履いたまま相撲を行いました。武道のきまりよりも相撲の楽しさを味わうことを優先させました。

また、本来の丸い形の土俵ではなく、目印としてマーカーを並べ四角い土俵を多く作ることで、体育館でも一斉に多くの試合を行うことができました。

5 授業内容の工夫⑤ 番付表

単元の後半では番付表を用い、ランキング形式で試合を重ねました（**写真４**）。横綱から序ノ口までの10段階で生徒を均等に割り振ります。上下一つか二つの番付に位置する人と対戦し、勝敗により番付が入れ替わります。三つ以上離れた番付に位置する人と対戦する時は練習試合扱いとし、入れ替わりはありません。

上位の番付を目指すこの取り組みは大いに盛り上がり、相撲の授業があった日の生徒の日記には、このことを書く生徒が多数いました。

6 全国相撲指導者研修会

令和５年11月17～19日に開催された全国相撲指導者研修会に参加しました。指導法概論や相撲の科学、安全管理・指導など、多くのことを学ぶことができ、非常に充実した研修会でした。私はこれまで、武道領域では柔道か剣道を指導してきており、昨年度初めて相撲の授業に取り組みました。この研修会では、指導案を作成し、地元の中学生への指導実践の機会もあり、アウトプットのある有意義な学びでした。

実践例で紹介された、生徒にオリジナルの四股名を考えさせる取り組みでは、実際に行ってみると、こちらの想像以上に本格的なものやユーモラスなものを生徒は考え、楽しみながら授業をすることができました。

相撲遊びや簡易試合を団体戦として行った取り組みは、単元の序盤と終盤で行いました（**写真５**）。指相撲や手押し相撲などの相撲遊びを、ただ導入として行うのではなく、団体戦として行うことで、相撲の魅力を生徒はより感じることができていたようでした。

写真５　団体戦の様子

また、日本武道協議会の『中学校武道必修化指導書』と日本相撲連盟の『中学校体育相撲指導の手引き』には、単元の流れや技のポイントがわかりやすくまとめられており、授業づくりにとても役立ちました。塵浄水コンテストなどは、礼法を覚えさせるだけでなく、生徒が主体的に練習を行うことができていました。

7 授業を終えて

事前アンケートでは、生徒全員が授業で相撲を行ったことはなく、相撲を授業で行うことへの期待感は低いというのが現状でした。「相撲の授業は楽しみですか」の質問に対して、単元開始前は2割の生徒が「とても楽しみ」または「やや楽しみ」と回答していましたが、単元終了後は、9割の生徒が「とても楽しかった」または「楽しかった」と回答していました。生徒の振り返りには、「授業前までは相撲に対して関心があまりなかったけれどとても楽しくできました」、「最後の最後で序二段になってしまいましたが、授業で相撲ができて楽しかったです。また、相撲について調べたり、動画でもいろんなことを知ったりすることができて面白かったです」、「塵浄水のやり方が難しかったけど、練習した後にミスすることなくできたのでよかったです。相撲は礼に始まり礼に終わるすてきな競技だということがわかりました」などがありました。私自身もここまで相撲の授業が盛り上がり、学び多きものになるとは思っていなかったため、授業の手応えが大きかったです。

中学校武道授業が必修化してから十数年が経過し、指導方法もよりよくしていかなければならない中で、今回は特にICTを授業づくりに活かしました。我が国固有の文化である武道とICTの組み合わせは、「今」の時代に合ったものだと感じました。これからも、すべての生徒が楽しみながら学びのある体育授業を目指して、さらに研鑽（けんさん）に励みたいです。

日本武道館の単行本

剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480項・定価2,640円
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひご一読を。

剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516項・定価2,640円
本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。

合気道 その歴史と技法 合気道道主 植芝守央 著
四六判・上製・362項・定価2,640円
世界140の国と地域、国内2,400の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。

空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苅徹 著
四六判・上製・548項・定価2640円
空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

マンガ・日本武道風土記（上巻・下巻） 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1100円
全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。

死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2640円
競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ

学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2640円
明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ
（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp